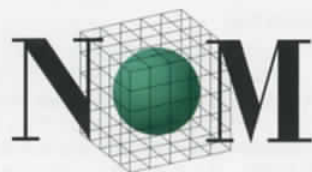


雪 椿 通 信



特集:

「ネオテニー・ジャパン—高橋コレクション」展をより楽しむために P2

2009年夏 にいがた現代アート散策 P3

特集:

土田麦僊にみる「理想的な美」 P4

平成20年度の新収蔵品 P5

あしあと：普及活動報告 P6

アートボランティア通信 P7

イベント情報（平成21年4～9月） P7

利用案内／ショップ&レストラン情報／万代島美術館情報 P8



「ネオテニー・ジャパン — 高橋コレクション」展を より楽しむために ～出品作家・秋山さやかさんにきく～

本展覧会出品作家で、本展のために唯一、長岡に滞在して新作を制作して下さる秋山さやかさんにお話を伺いました。



Photo by Stuart Bastik

●秋山さやか

1971年兵庫県生まれ。2000年に「フィリップモリスアートアワード」大賞、2001年に「ダイムラー・クライスラー・アート・スコープ」を受賞し、海外での滞在制作の機会を得る。その後、「City_Net Asia Project」(ソウル美術館)、「東京—ベルリン」(ベルリン国立美術館)、「MOTアニュアル」(東京都現代美術館)、「時間の形」(丸亀市猪熊弦一郎現代美術館)など数々の展覧会に出品。また、ワークショップも国立国際美術館、国立新美術館など国内の様々な美術館で行っている。

Q. 秋山さんは旅の日記をつけるように、ご自分が体験された風景や出来事を針と糸を使って表現されていますが、いつ頃から、またどのようなきっかけでこのような作品を制作するようになったのでしょうか。

——そもそも私は、大学の油画科で絵を描いてました。でも、自分の表現したい事と方法がだんだん噛み合わなくなって来て。そんな時(1997年頃)、街をあるいていたら、路面の道路工事の白い線とか記号が目に残った。ここから、道、そして「あるく」に惹かれてゆきました。まず、紙に、自分のあるいた1歩1歩を、足の出す方向まで忠実に、ダンスステップの足マークの様に、鉛筆で点を打ってみた。そしたら真っ白い紙の上に今までに感じたこともないような、美しい線が現れて……驚き、興奮しました。こうなると、どんどんどんどん、おもしろくなって来て、今度は私の足跡(そくせき)自体を作品にしたい。初めは普通の不動産屋さん地図に、あるいた箇所をペンなどで点を打ちマーキングしてみたのですが、何か違う。その時、ふっと、この1歩1歩を針と糸で縫ってみたらどうなるんだろう、と。やってみたら……しっくりきたーもう、びたっ!!!これしかないという、すごい「出逢い」でした。

あの時、何で針と糸を手にしたのか。それはもう「閃き」としか、言えない。もともと、私は手芸なんかを愛を持っていなかった。初めての家庭科の授業で針の穴に糸を通すだけで1時間が終わり……もたもたいらいら、楽しい思い出はまったく無く。この制作に入って10年近く、いつしか左手でも縫えるようになった今も、ボタンつけがダメ。私にとって、針も糸も、どちらかと言えば絵の具と筆のそれに近い道具だと思えます。そして私は東西南北が分からない。看板や目印を頼りに、図でなく絵の中の街を進みます。つまり私は、縫うこともあるくのも、実は、不得意です。でも、この不器用=マイナスと方向音痴=マイナスが合わさったからこそ、私の作品世界は生まれたんでしょうね。

Q. 本展覧会「ネオテニー・ジャパン」は霧島と札幌、東京の三カ所を巡回していて、秋山さんは各地で滞在制作されていますね。ここ長岡でも一週間ほど滞在して作品をつくられる予定ですが、精神的に、また表現上で、これまでと違って

部分はありますか？

——私はこの8年、国内外のさまざまな土地へゆきましたが、場所ごとに沢山の発見があり、各々の作品には「その土地の色」が濃く出ました。ストックホルムの色は銀、上海は派手なピンク、ベルリンは黄土……およそ30箇所の色に出逢えた。

今回のネオテニー展では、日本を巡り制作できるチャンスを与えていただきました。実は今まで、国内の地方での制作はほとんど無かったので、新鮮でした。栗野(鹿児島)は、青と薄い桃で、札幌(北海道)は、強い黄緑。そして、長岡では……私はどんな色を感じ、どんな縫い目を生み出すのでしょうか。とても楽しみでわくわくしてます。また、長岡ではいつもと違って、展覧会のひと月ほど前に現地制作が済んでしまいます(毎回、オープンギリギリまで作品にかじり付いてます)。これは小さな違いかもしれない、でも、大きな変化に繋がるかもしれない予感がしています。

Q. 最後に、長岡での滞在制作の初日にワークショップを行います。その内容について教えてください。

——まず、みんなで新潟県立近代美術館からスタートして長岡の街を散策しましょう。長岡をよく知っている人はいつもとは違う視点から、初めての人は旅人の気持ちで。そして、あなたの「気になるモノ」を見つけ、持ち帰って来て下さい。

次に、このフィールドワークの思い出を「手紙」のかたちの作品にしてみましょう。この日、あなたは街で何を発見し、どんな出会いをしましたか？気になるモノを使って、自分なりの表現で制作します。

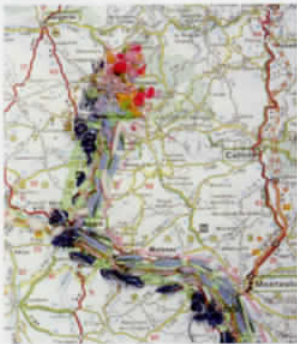
出来上がった「手紙」は、それぞれ伝えたい誰かに宛てて送ります。「手紙」が相手のもとに届いた時、この作品は完成するのです。あなた—長岡の街—手紙を受け取った人、この3つの点が結ばれた時、どんな世界が出来上がるのでしょうか。

なお、ワークショップ後、みなさんの「気になるモノの『余り』」を頂けたら幸いです。私の長岡作品に使わせてもらえたら、と思うのです。

秋山さんは展覧会開催前の6月21日から28日頃まで長岡にて滞在制作を行います。

初日の21日にはワークショップを、23～25日には公開制作を美術館内で行う予定ですので、この機会にぜひ世界で活躍する第一線の作家さんと直接お話ししてみてください！

■参考作品（展覧会には出品されません）



「モンブランカンにあそびに来てくれた友人たちが
迎ったフランス一周の旅
2001年7月14日～26日」(部分)2001年 個人蔵

日本新世代のトップ・アーティストたち
「ネオテニー・ジャパニー高橋コレクション」

会 期 2009年7月21日(火)～9月10日(木) 会期中無休
開館時間 9:00～17:00 (毎週金曜日は18:30まで開館)
※観覧券の販売は閉館30分前まで
観 覧 料 一般 当日900円(700円) 前売700円
大高生当日800円(600円) 前売600円
※中学生以下は無料
※()内は20名以上の団体料金
※障害者手帳をお持ちの方は無料(受付でご提示ください)

展覧会関連イベントについては当館ホームページをご覧ください



「あるく 私の生活基本形 ～深川 2006年8月4日～」
制作中の秋山さやか(2006年10月1日撮影)
Photo by Hideto Nagatsuka

2009年夏 にいがた現代アート散策

2009年7月から9月にかけて、新潟県では現代美術の大きなイベントが同時に開催されます。今年で4回目を迎える十日町市・津南町の「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2009」、そして新潟市を舞台に今年ではじめて開催される「水と土の芸術祭」。この二つに挟まれた長岡市にある当館では、世界で活躍する日本の現代美術家たちの作

品を一堂に会した「ネオテニー・ジャパニー高橋コレクション」展の開催にあわせて、会期前のプレイベントを含む展覧会関連イベントをはじめ、美術館全体を使って様々な展示や催しを行う「アートフェスタ NEO²」を開催予定です。詳しい内容はチラシやホームページでお知らせしますので、ご期待下さい。

「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2009」
@越後妻有地域(十日町市・津南町)
2009/7/26-9/13

地域と都市、アーティストと地域住民と都市の若者を結びながら里山の自然や廃校を利用して地域の活性化に成功した例として、国際的に評価の高いアートイベント。4回目を迎える本年は、新旧あわせて約350点の作品に加え、新たに廃校となった学校を活かした地域づくりや海外との協働企画も行われる。

ECHIGO-TSUMARI

NIIGATA

NAGAOKA

「水と土の芸術祭」@新潟市全域
2009/7/18-12/27

食・文化・景観のすべてにおいて水と土の恩恵を大いに受けている新潟市。その恵みや先人から受け継いだ伝統を、アートを通して広く伝えるイベントとして、今年初めて開催される。

「アートフェスタNEO²」@新潟県立近代美術館
2009/6/21-9/10

展示室で行われる「現代美術のクラシック」展や「ネオテニー・ジャパニー高橋コレクション」展の他にも、映像作品の上映やNoismの公演、電子音楽パフォーマンスなど、館内各所で現代の芸術表現を紹介する企画が満載。会期中何度も訪れて、美術館を存分にお楽しみください！

土田麦僊は近代日本画を代表する作家の一人で、明治後期から昭和初期において新しい日本画の創造を目指しました。画家たちが百花繚乱する日本画壇の中で常に進取の気性に富み、斬新で革新的な絵画の制作を試み、紆余曲折を経ながら晩年には自ら目指した「理想的な美」を具現化し、東洋的な精神を内在した平明で理知的な作品を描き上げています。

今回の展覧会は、麦僊の画業を第一章「文展と新古美術品展」、第二章「国画創作協会と滞欧」、第三章「帝展と七絃会展」の三章に分け、出品作を中心とした代表作と素描や書簡などをあわせて展示することによって、四十九歳の生涯を紹介するものです。

麦僊は、佐渡郡新穂村（現佐渡市）に明治20年（1887）に農家の三男として生まれました。麦僊の画才は幼いときから発揮され、16歳のときに京都に上り、初めは鈴木松年入門しましたがすぐに同塾を離れ、当時新勢力として台頭してきていた竹内栖鳳に入門、栖鳳塾（竹杖会）で研究と勉学に明け暮れ新古美術品展などで受賞を重ねました。

特に栖鳳からは「東西絵画の融合」の感化を受け、京都市立絵画専門学校に入学後は、日本画・洋画の枠を越えた研究団体「黒猫会」や「仮面会」の設立に参加しています。西洋絵画を知ることによって日本画の新たな絵画表現の可能性を模索、文展には《島の女》、《海女》など西洋絵画の手法を日本画に取り入れた挑戦的な作品を発表して、旧来の画風が主流を占める中で新風を巻き起こし世間の矚目を集めました。

その後、明治末期から若手画家を中心に起きていた絵画運動による影響と、文展の保守的な審査の在り方に疑問を抱いていた京都の若手日本画家たち、村上華岳、榊原紫峰、小野竹喬、野長瀬晩花、土田麦僊の五人は「西洋美術と東洋美術の融合」、「新しい日本画の創造」を旗頭に掲げ国画創作協会を



土田麦僊 (1887-1936)

結成しました。国画創作協会が理想とした「個性の尊重、創作の自由、自己の絵画上の理想」のもと、麦僊は「東洋絵画と西洋絵画との融和」を図った作品を描くため、桃山時代の障壁画、近世初期風俗画、中国宋代の花鳥画、イタリア中世の宗教画などを模範として制作を行いました。

当時、多くの画家が渡欧し新知識を日本に移入するなかで、麦僊は心の中で、西洋絵画を実見せずに受容していることに飽きたらず、実際ヨーロッパで直接西洋美術に触れ吸収したい欲求がありました。大正10年秋から12年春にかけて渡欧し、滞欧中は様々な国を訪れ、ゴーギャン、ルノワール、セザンヌ、ルフィエリなど多くの作品に触れ感銘を受けて帰国しています。

帰国後、麦僊は見聞した西洋絵画の知識と日本画を融合した作品の制作を一時試みましたが、滞欧時に再認識した東洋美術や日本美術の優秀さを自己の作品に表現するため、伝統的な日本絵画を希求し回帰しています。晩年の作品には、麦僊の感性に貫かれ徹底した「理想的な美」への追求が行われており、理知的で平明、静謐さと品格が漂う古典的な美へと昇華されました。麦僊の絵画世界は、「写実の美と装飾の美との渾然融和した」美しさをもった絵画から、写実を重視しながら平明で東洋的な精神性をもった「理想的な美」を描くことに変化しています。

麦僊の文展や国画創作協会展時代の作品は新しい試みが行われたため傷みがひどくなったりして、無理ができなくなっています。結果として、借用できない代表作もありました。恐らく今回規模の土田麦僊展は、作品の保存を考えると今後開催はできないと思われ、「最後の土田麦僊展」になってしまいそうです。

（副館長 横山秀樹）

「土田麦僊」展

会 期 2009年9月19日(土)～11月3日(火)
休館日：9月28日、10月5日・13日・19日
※10月13日に展示替えを行います
開館時間 9:00～17:00
(毎週金曜日は18:30まで開館)
※観覧券の販売は開館30分前まで
観 覧 料 一 般 当日 1000円 (800円)
前売 800円
大高生 当日 800円 (600円)
※中学生以下は無料
※()内は20名以上の団体料金
※障害者手帳をお持ちの方は無料
(受付でご提示ください)



海女(右隻) 1913年 京都国立近代美術館



平床 1933年 京都市美術館

本年度の新収蔵品はすべて寄贈によるもので、収蔵点数は45点でした。昨年度は佐渡出身の陶芸家三浦小平二の作品をはじめとして総数128点もの作品を収蔵したので、作品点数のみを前回と比較すると、今回は少々物足りなく感じられるかも知れません。しかし、内容的には県出身作家や当館の収集方針上の重点作家を含んでおり、今後の活用が楽しみな作品群を収集することができたといえると思います。

「日本の美術」の分野においては、小林古径が40代半ばに制作したと思われる《紅梅》、美人画で知られる伊東深永が第二次世界大戦中に描いた《ジャカルタの踊り子》《浄洗下絵》、第10回亀倉雄策賞を受賞した気鋭のデザイナー佐藤卓による《water展のためのポスター》等があげられます。「新潟の美術」では、本県与板町（現長岡市）出身の大矢十四彦の再興第86回展奨励賞受賞作《明けゆく》、洋画では茅茸民家のある風景をライフワークとしている早津剛の2点、一貫して囲炉裏端の情景を描いてきた池山阿有による《炬燵》、また村上出身の木工芸作家細野實の《雲の標》、良寛の書《なすずけ》を収蔵しました。

興味深い新収蔵品の一つが、土田麦僊の《山茶花》（大正中期）です。当館ではこれまで、重要作家である土田麦僊に関して

は、明治末の初期作品から昭和期の晩年作まで、総合的な収集を続けてきました。既収蔵作品の中に、麦僊によって描かれた《山茶花》（1933年）があります。年代の異なる同主題の2作品を比較すると、晩年期の端正な鉄線描に対して、今回の作品では没骨たらし込みという技法を大胆に用いており、大きく作風が変化していることが見て取れます。一人の作家の画風の変遷をたどり得るコレクションの形成、という収集目標に向けてのワンステップとなる収蔵品といえるでしょう。



大矢十四彦《明けゆく》2001年



池山阿有《炬燵》1993年



早津剛《小出の家（中魚沼郡中里村小出にて）》1979年

平成20年度 新収蔵品紹介 — 新潟県立近代美術館・万代島美術館 —

日本の美術

分野	作家名	作品名	制作年	素材・技法
日本画	行田魁庵 他	新潟年中行事絵巻	江戸末期	紙本彩色
	土田麦僊	山茶花	大正中期	絹本彩色
	小林古径	紅梅	1927年頃	絹本彩色
	伊東深永	ジャカルタの踊り子	1943年	紙本彩色・墨書
素描	伊東深永	浄洗下絵	1943年	紙本彩色
資料	川合玉堂	雪無き国	1943-44年	紙本淡彩・墨書
		春の訪れ	1943年	紙本淡彩・墨書
	佐藤 卓	water展のためのポスター	2007年	オフセット(2点1組)

新潟の美術

分野	作家名	作品名	制作年	素材・技法・形状
日本画	大矢十四彦	明けゆく	2001年	紙本彩色
	末松正樹	作品	1951年	油彩・キャンバス
油彩画他	早津 剛	小出の家（中魚沼郡中里村小出にて）	1979年	油彩・キャンバス
		倉俣の家（中魚沼郡中里村倉俣にて）	1981年	油彩・キャンバス
	池山阿有	炬燵	1993年	油彩・キャンバス
素描	末松正樹	大工 高野氏の像	1932年	鉛筆・紙
		自画像	1930年代	コンテ・紙
書	良 寛	なすずけ	江戸後期	紙本墨書
工芸	細野 實	雲の標	2002年	樺

分類替え（資料から作品へ）

＊平成13、19年度収蔵のポスターより

分野	作家名	作品名	制作年	素材・技法
デザイン	亀倉雄策	1953 Nippon Kogaku K.K.	1953年	オフセット
		ニコール クラブ写真展	1953年	オフセット
		Nippon Kogaku 1954	1954年	オフセット
		第2回 ニコールクラブ写真展	1954年	オフセット
		Nippon Kogaku K.K. 1955	1955年	オフセット
		ニコールによる写真募集	1955年	オフセット
		ニコールフォトコンテスト	1956年	オフセット
		Nikon F(白バージョン)	1959年	シルクスクリーン
		Nikon F(青バージョン)	1959年	シルクスクリーン
		Nikon F(赤バージョン)	1959年	シルクスクリーン
		この色と紙が秋のメンズモードを創る! ミリオンテックス展	1953年	オフセット
		ミリオンテックス創作展のお知らせ	1954年	オフセット
		一流美術工芸家のデザインによる ミリオンテックス創作展	1954年	オフセット
		第9回羊彩会 1955年秋冬物新作発表展示会	1955年	オフセット
		第11回羊彩会 1956年秋冬物新作発表会	1956年	オフセット
		ミリオンテックス 高級紳士服地 ちかづく春に	1956年	オフセット
		冬 羊毛の暖い感触が生きてくる! ミリオンテックス	1956年	オフセット
		暑くて喜ばれ、着て、また喜ばれる! ミリオンテックス	1956年	オフセット
		豊満なしなやかな程よい重量感・自然の防水性・型くずれせぬ保水性・確かに生きていく! ミリオンテックス	1956年	オフセット
		春 羊毛の真やかな感触が生きてくる! ミリオンテックス	1957年	オフセット
		多彩な色柄しかも長く着たい高級紳士服地 ミリオンテックス	1957年	オフセット
		冬 羊毛の季節 ミリオンテックス	1959年	オフセット
		羊毛の感触が暖かく生きてくる! ミリオンテックス	1959年	オフセット
		東レテロンを生かした新製品! ダイダーボックス	1959年	オフセット
		東レテロンを生かした大規模毛織の新製品! ダイダーボックス	1959年	シルクスクリーン
		服地ならミリオンテックス(横)	不 明	オフセット
		服地ならミリオンテックス(縦)	不 明	オフセット

平成20年度の教育普及活動は、項目で見ると例年通りで、美術鑑賞講座・作品解説会・ワークショップ・映画鑑賞会等を行いました。具体的に活動を振り返って見ると、これまでと違う新しい側面が、大きく分けて二つあったように思います。

一つは、子ども、あるいは親子を対象に、より積極的、能動的な美術創作への参加を促す活動です。たとえば、夏休み期間に集中して行われた「子どもアートミュージアム」、ワークショップ「親子でアート」、常設展「こどもの世界」での創作コーナーなどがそれにあたります。いずれも〈美術館〉という場を生かしながら、これまでとは異なった形で、子どもたちの創作活動の場としてどのように解放できるかという試みであったように思います。県内の様々な場所で行われている美術活動の発表の場として美術館の場を活用してもらったり（子どもアートミュージアム）、美術作品に囲まれた展示室での気軽に簡単な創作活動を行ったりと（「こどもの世界」創作コーナー）、この活動を通じて、美術館が人々にとって少し親しい存在になったように思いました。ただ、〈美術館〉という場を有効に生かしたのか、美術館ならではの活動ができたのか、あるいは展示室内に創作コーナーを設置することによって展示作品との有機的な相乗効果が得られたのか、といった点を考えたとき、まだ検討の余地があるように思われるため、今後一層の工夫が必要になるでしょう。

もう一つは、当館で「びじゅつ☆体験隊」と呼んでいる実技系のワークショップに、大人が興味を持って参加できる内容のものが増えたということです。これまでは〈体験〉に主眼をおいたワークショップは子どもの参加を想定したものが多かったのですが、20年度に行った「国宝の秘密に迫る」「水墨画に挑戦」「てん刻に挑戦」「能のうごきに挑戦」は、大人からの申し込み



2008.9.28 びじゅつ☆体験隊「国宝の秘密に迫る」



2009.2.1 びじゅつ☆体験隊「能のうごきに挑戦」

がほとんどでした。これは、大人も、美術に関する専門的な技術や知識などを、座学だけでなく〈体験〉を通して学ぶことにも意欲的であることを示しています。本格的に取り組もうとは思わないまでも、さわりだけならちょっとやってみたい、という気持ちもあるのでしょう。各ワークショップで、参加者が目を輝かせながら真剣に取り組んでいたことを思い起こすと、やはり、〈見たり、聞いたり〉だけではなく〈実際にやってみる〉という能動的な活動によって、充実感を伴った学びが可能になることが実感されます。

美術館に親しみを持ってもらうために、展示とも連動した魅力ある体験活動のプログラムが必要です。まだまだ工夫しなくてはならないことはたくさんありそうです。



常設展Ⅱ「こどもの世界」体験コーナー ヒモと基石で床に描かれた絵

魅力的なボランティア活動

市川明美

私は昨年、春、4年制（通信制）の大学を卒業し、そこでは生涯学習部の人間開発教育課程に学び社会教育・学芸員の勉強にも辿り着きました。私は自己開発、自己実現のためにも自分の人生に役立てたいと思い、一昨年の秋に館を訪れボランティア活動の希望を申し出ました。

今はボランティアや館員の方々と触れ合いながら楽しく活動し、今年は作品基本カード作りなどのほか、作品の解説等幅広く活動を行いたいと思っています。日々多忙な中でも自分のペースでボランティア活動ができることがとても魅力的であり感謝しております。

今年は地域の青少年健全育成会にも所属し、生涯学習・社会教育を地域活動にも活用できたらと願い、ボランティア活動を様々な活動に生かしていきたいと思います。

来館者と美術館のかけ橋に

新保豊子

昨年の今頃はアートボランティアの活動をやるかどうかどうしようかと迷っていたことを思い出します。「迷ったときはまず行動」と思い勇気を出して応募してみました。しばらくして、美術館から

「決定」の通知が来た時は「ホッ」としました。

実際の活動は作品基本カードや貸出記録の整理や企画展・常設展のDM発送作業、ワークショップの手伝いに講演会の受付等多岐にわたります。何よりも美術に関することばかりですので、ワクワクしたりドキドキしたり楽しい活動ばかりでした。「まず、行動」してみても大正解でした。21年度は今までの経験を生かしてボランティア独自の活動ができれば、より一層来館者と美術館のかけ橋になるのではないかと思います。春からの活動が楽しみです。



ボランティアも参加したギャラリートーク

イベント情報 〈4月～9月〉

企画展

- 3/7(土)～4/5(日) 東海道五十三次とジャポニスム
4/11(土)～5/31(日) 油絵事始め リアリズムを求めて 日本近代洋画への道
7/21(火)～9/10(木) ネオテニー・ジャパンー高橋コレクション
9/19(土)～11/3(火) 土田麦僊

常設展

- 1/24(土)～4/19(日) にいがたの風景
4/23(木)～6/14(日) 小林古径と院展の日本画家たち
6/18(木)～9/13(日) 現代美術のクラシック
9/19(土)～11/15(日) 西洋の魅力を探る旅ーモネ、ロダンからピカソまで

共催展

- 6/5(金)～6/14(日) 県展

巡回ミュージアム

- 5/3(日)～6/11(木) 弥彦村総合コミュニティセンター(弥彦村)
7/25(土)～8/30(日) 小林古径記念美術館(上越市)

ワークショップ(参加無料/エントランス集合/午後2時～)

○びじゅつ☆体験隊

- 4/26(日) 高橋由一の《鮭図》に迫る一さかなをえがく(要事前申込)
8/9(日) ゆめの広がる石コウのタマゴ(要事前申込)
9/20(日) 大人のぬり絵ー土田麦僊の舞妓を描く

○発見!びじゅつかん

- 5/3(日) 美術館の舞台裏探検
7/12(日) ギャラリートーク 美術でおしゃべり①
7/26(日) ギャラリートーク 美術でおしゃべり②
8/16(日) ギャラリートーク 美術でおしゃべり③

映画鑑賞会 (無料/講堂/①午前10時～ ②午後2時～)

- 5/2(土) 「子鹿物語」
8/8(土) アーティストキュメンタリー映画「草間彌生～わたし大好き～」
8/15(土) アーティストキュメンタリー映画「天明屋尚」
8/22(土) アーティストキュメンタリー映画「舟越桂」

- 8/29(土) アーティストキュメンタリー映画「会田誠～無気力大陸～」

- 9/5(土) アーティストキュメンタリー映画「森山大道」

美術鑑賞講座(聴講無料/講堂/午後2時～)

- 5/16(土) 「近代日本美術史入門 名品をたずねて 1
明治期の洋画ー高橋由一、小山正太郎を中心に」
(桐原浩万代島美術館業務課長)
5/23(土) 「近代日本美術史入門 名品をたずねて 2
明治期の日本画ー西洋絵画との出会い」
(横山秀樹副館長)
5/30(土) 「近代日本美術史入門 名品をたずねて 3
大正期の日本ー個性と情熱の時代」
(長嶋圭哉主任学芸員)

- 9/26(土) 「土田麦僊 人と作品」(横山秀樹副館長)

第2回 こどもアートミュージアム ～あつまれ! なつやすみのびじゅつかん～

(こどもの作品展示とこども対象のワークショップ/2階ギャラリー/こどもの作品とこども対象のワークショップ企画募集中)

- 7/28(火)～8/3(月)

出前講座 本年度開始事業/随時受付中

市町村、公民館、町内会、PTA、園・学校等の単位で申し込み。

学芸員の講師派遣で、美術鑑賞講座やワークショップを身近に実施。

①美術鑑賞講座

「三芳徳吉と絵本」、「横山操と新潟」、「佐渡の人間国宝 三浦小平二」、「長岡出身の洋画家 小山正太郎」、「砂浜を描いた洋画家 國領經郎」、「岩田正巳と新興大和絵の画家たち」の6タイトルから1つを選択。

②ワークショップ

「マティスの切り絵に迫る」、「やってみようロダンのポーズ ロダン体操」、「現代アートを体験 形と色の組み合わせ」、「どこでもアート つんで、ならべて」の4タイトルから1つを選択。

※詳しくは、ホームページもしくは当館までお問い合わせ下さい。

MUSEUM INFORMATION

開館時間

- ▶午前9時～午後5時
※4月11日(土)～11月3日(火)までの企画展開催中の毎週金曜日は午後6時30分まで開館します。
※観覧券の販売は閉館30分前まで
- ▶レストラン/午前10時～閉館時間まで
※ラストオーダー〔食事〕 閉館1時間前まで
〔飲物〕 閉館30分前まで
- ▶ミュージアムショップ/午前9時～閉館時間まで

休館日

- ▶毎週月曜日
※月曜が祝日の場合は開館し、翌日休館します。
※5月・8月は無休です。
※保守点検・展示替え・年末年始のため下記の各期間は休館します。
6月15日(月)～17日(水)、9月14日(月)～18日(金)、11月16日(月)～18日(水)、
12月28日(月)～1月4日(月)、2月8日(月)～10日(水)
※都合により、臨時休館する場合があります。
- ▶月曜日開館
4月13・20・27日 5月4・11・18・25日 6月8日
7月20・27日 8月3・10・17・24・31日
9月7・21日 10月12・26日 11月2・23日 1月11日
3月22日

観覧料金

- ▶企画展
企画展によって観覧料が異なります。小学・中学・中等教育(前期) / 無料
なお、企画展の観覧料で、展示室1・2・3もご覧になれます。
- ▶展示室1・2・3
●一般 / 420円(340円)
●中等教育(後期)・高校・高等専門・大学 / 200円(160円)
※学生証を提示してください。
●小学・中学・中等教育(前期) / 無料
※()内は20名以上の団体料金です。
※障害者手帳をお持ちの方は無料になります(受付にて手帳をご提示ください)。

万代島美術館情報

- ◇金GOLD 黄金の国ジバングと佐渡金銀山展
2月21日(土)～4月19日(日)
- ◇美の視点 記憶のかたち
5月2日(土)～6月21日(日)
- ◇没後80年記念 佐伯祐三展
一ハリで夭逝した天才画家の道(写真)
7月4日(土)～8月30日(日)
- ◇ジブリの絵職人 男鹿和雄展
トトロの森を描いた人。
9月19日(土)～11月29日(日)
- ◇松永真のデザインと亀倉雄策賞の10年
12月12日(土)～2月14日(日)
- ◇花鳥風月
2月27日(土)～3月31日(水)



佐伯祐三《郵便配達夫》1928年
大阪市立近代美術館建設準備室蔵

The Niigata Bandaijima Art Museum
新潟県立万代島美術館
〒950-0078 新潟市中央区万代島5-1
(朱鷺メッセ内 万代島ビル5F)
TEL025-290-6655 FAX025-249-7577
<http://www.lalanel.gr.jp/banbi/>

ミュージアムショップ KINBI より 〈おすすめ商品のご案内〉

今回は、他ではなかなかお目にかかれない人間国宝・三浦小平さんのグッズを紹介しします。
よくご存知ない方にも、素朴でやさしい作品の魅力が伝わる
ことと思います。

〈取り扱いグッズ〉

- ・ポストカード ¥105
- ・丸型ポストカード ¥125
- ・ハンカチ ¥1,575
- ・クリアファイル ¥315



■ミュージアムショップ KINBI TEL0258-28-2200

レストラン 広告塔 より 〈人気メニューのご案内〉

散歩の途中、美しい絵画を鑑賞した後、お気軽にご利用ください。展覧会にちなんだお食事、和洋中おすすめランチ等、
バラエティー豊かなメニューでお待ちしています。

まるで好み焼きのように
見える写真の『石焼ビビンバ』
は隠れ人気メニュー。女性は
シーフード丼、男性には牛炒
飯がおすすめです。



■レストラン 広告塔 TEL0258-29-5001

表紙作品解説

- ①中岡慎太郎 《FANTASY》1995年 265×233×143cm
- ②竹田康宏 《Under the leaves 97D Nagaoka "Do you love me?"》
1997年 455×280×430cm

平成6-7(1994-95)年度、平成8-9(1996-97)年度に各4体ずつ制作依頼された当館の8体の野外彫刻も、既に設置後10年以上が経ちました。今では、成長した周囲の樹木とも調和し、庭園のシンボルとして親しまれています。

中岡慎太郎は石を素材に人型をモチーフに制作している作家です。当館の提案した設置場所を踏まえ、信濃川の土手から館の将来を見据えるような巨大な作品を制作しました。当時国内で入手できた最大の、19トンもの重量の御影石に、電動カッターで溝を刻みながら造形しています。

一方、竹田康宏は、作品に植物と人間の共生というメッセージを込めました。人間は地球上の植物を愛し、愛されているでしょうか。この作品は、大きな2枚の葉が互いに支え合い、ある角度から見るとハート型にも見えるように構成されています。緑に映える赤い色は、鮮やかさを保つために何度も塗り直しをしています。

新潟県立近代美術館より 雪橋通信 第32号

編集・発行 THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART
新潟県立近代美術館

〒940-2083 新潟県長岡市千秋3丁目278-14
TEL0258-28-4111(内) FAX0258-28-4115
<http://www.lalanel.gr.jp/kinbi/> e-mail kinbi@coral.ocn.ne.jp

制作・印刷 株式会社中央印刷
〒940-0041 長岡市学校町1-9-21 TEL0258-35-3500

発行日 2009年4月25日